
sweet × sweet

もりこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

sweetxsweet

【Nコード】

N6385Y

【作者名】

もりこ

【あらすじ】

美和は喫茶店「茶庵」でアルバイトをしながら大学に通う3年生。「茶庵」の常連である由季とは面識はあるものの、「店員」と「客」以上の関係はなかった。しかしある日、看護師をしている母親の職場で歓送迎会があり、泥酔した友利子を佐野家へ送り届けたのは見覚えのある顔……。それは「茶庵」の常連、都立病院で働く外科医の由季だった。

PC 閱覽推獎

登場人物紹介

> i 3 5 2 9 5 — 4 4 4 0 <
< s w e e t x s w e e t > 人物紹介

【北川 美和】

21歳。大学3年生。母親が看護師をしており、ある事をきっかけに由季と出会う。男性にあまり免疫がない事、照れ屋＋赤面症が功を奏して
恋愛には非常に奥手。喫茶店「茶庵」にてアルバイトをしている。
甘味が
大好物で、休日は食べ歩きをしている。

【吉澤 由季】

29歳。都立病院の外科医。地味にテンションは低めだが、本人はそうでもないらしい。「茶庵」の常連。料理が趣味で、特にお菓子作りが得意。
童顔であることを少し気にしている。

【北川 友利子】

48歳。美和の母親。都立病院の看護師をしている。主任。

【森 圭介】

「茶庵」のマスター。脱サラして喫茶店を始めた。美和の事は子供のころから知っており、父親代わりの良き理解者。

以前のイラストを使いまわしました…。すみません。
今後登場人物は順次増える予定です。

第1話（前書き）

初（小説）投稿です。誤字脱字矛盾相違 e t c . . . 多量にあると思います。それでもOKという心の広い方のみ、お願い致します
…。

第1話

「いらっしゃいませ」

カランコロンと、古びたドアベルの音が「茶庵」の店内へ響き渡る。美和は伝票ホルダーを片手に持ち、今しがた来店した常連客の元へと急いだ。

「吉澤さん、こんばんは」

美和がその声を掛けると、声を掛けられた主は今美和が近づいたことにやっと気が付いたように顔を上げた。

「……こんばんは」

若干、目の下に隈があるような気がするのには気のせいだろうか。

「あ、すみません。ご注文をお伺いします」

「コーヒーで。……あと、ケーキが何かあったら一つ。お任せでいいから」

メニューをめくる事も気怠そうな吉澤は、注文を言い終えた後テーブルの上へ突っ伏してしまった。

すると「茶庵」のマスターであるところの森圭介が、厨房の奥からここにことした表情で吉澤の元へ近づいた。

「吉澤さん、お仕事お疲れ様。今日も大変だったようだね。」

「……どうも。まあ、それが仕事ですから」

「吉澤さん、多分今日の最後のお客さんだと思っから、ゆっくりしていつて。美和ちゃん、ロールケーキがまだ残っていたはずだから、その準備をお願いしていいかな。」

はい、と美和は頷くと、厨房へ急ぐ。ちらりと後ろを振り返ると、マスターと吉澤が話を続けているようだ。微かだが、吉澤にも笑みが見られている。

(すごい。吉澤さんが笑ってる。私は挨拶程度しか会話をした事がないから……。いつも疲れたような顔をしているし。やっぱり店長

は、人に笑顔を咲かせるのがすごく上手い人）
ため息を漏らし、厨房の奥でケーキの準備を始めた。

美和は、幼いころから恥ずかしがり屋で、人と話すとすぐに赤くなってしまう。特に異性だと意識してしまい、顕著に表れてしまうようだ。まだ小学生の低学年だった頃に父を亡くし、現在は母親と2人で生活している。もともと男の子が苦手だと言う事も相まって、中学から現在の大学に至るまで女子校へと進学し、男性への免疫が殆どない。

（ここで働かせて貰うようになって随分マシにはなっただけ。やっぱり、男の人とはうまく話せないなあ。大学は、せっかく進学させてもらったんだから、共学にしたらよかったな、なんて……。）
後悔しても後の祭りだ。

「茶庵」は森が40歳のころに脱サラし、今年で20周年となる。

「茶庵」は美和の自宅から数十メートル先にあり、森には幼いころから実の父親のように可愛がってもらっていた。森には妻がいるが、子どもはいないため、余計にだらう。そして「茶庵」で働いているのは、森の勧めであり、恥ずかしがり屋な性格を少しでも克服するためだ。

（マスターが協力してくださっているんだから、恥ずかしがり屋な性格を克服できるよう頑張らなきゃ）

美和は改めて決意を胸に刻み、カウンタードアを押した。

> i 3 5 4 1 2 — 4 4 4 0 <

吉澤先生。術衣着てる先生を眺めるのが好きです。（え）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6385y/>

sweet x sweet

2011年11月21日02時04分発行